

一関市議会 教育民生常任委員会 記録

会議年月日	令和6年11月28日(木)			
会議時間	開会	午後1時22分	閉会	午後3時20分
場 所	全員協議会室			
出席委員	委員長 永 澤 由 利		副委員長 千 葉 信 吉	
	委 員 岩 淵 優		委 員 那 須 勇	
	委 員 佐 藤 真由美		委 員 菅 原 行 奈	
	委 員 門 馬 功		委 員 千 葉 大 作	
遅 刻	遅 刻 なし			
早 退	早 退 なし			
欠席委員	欠 席 なし			
事務局職員	栃澤局長補佐兼議事係長			
紹介議員	なし			
出席説明員	なし			
参 考 人	なし			
本日の会議に 付した事件	所管事務調査 (1) 不登校問題について (2) その他			
議事の経過	別紙のとおり			

教育民生常任委員会記録

令和6年11月28日

(午後1時22分 開会)

委員長 : ただいまの出席委員は8名です。

全員の出席ですので、これより本日の委員会を開会します。

録画、録音、写真撮影を許可しておりますので、御了承願います。

本日の委員会の進め方について、説明します。

午後1時30分から「不登校支援フォーラム2024」を委員の皆様で聴講いたします。

フォーラム終了後、委員の皆様と不登校問題について、意見交換を行います。

以上のとおり進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

所管事務調査を行います。

初めに、不登校問題についてを議題といたします。

これから、不登校支援フォーラムを聴講いたします。

休憩します。

(休憩 13:22~15:00)

委員長 : 再開します。

不登校問題について、これより意見交換を行います。

佐藤委員。

佐藤委員 : 本当に百人百様だということをもっとしっかり考えていかなくてはならないと思いました。

不登校が増えているという、何か子供たちの生きづらさというのを少しでも何か解決できる方法というか、道筋が分かってくるといいですか、何かできたらいいなと思います。

委員長 : 千葉大作委員。

千葉(大)委員 : 今日は、岩手県教育委員会などが主催した「不登校支援フォーラム2024」にウェブから参加したのだけれども、少し食い足りない内容でなかったかと私自身は思いました。

「県内におけるフリースクール等民間団体の設置状況(県独自調査)」を見たところ、一関市に、森の寺子屋というのがありました。

この森の手小屋の代表の方などと教育民生常任委員会で意見交換を行いました。

そのときに来られた方から学校に行けないという体験談を話されました。

今から二、三年ぐらい前の話だったと思いますが、その方の子供は今どようになっているのかと私は思っているのです。

御家庭、お母さんは一生懸命、子供たちのために何とかしなければならない、真剣になって取り組んでいたことを今思い出して、やはり不登校を抱える母親の思いというのを私どももしっかり、真剣に考えていかなければならない時代だと改めて思いました。

以上です。

委員長：菅原委員。

菅原委員：私も、今日、不登校になった方の御意見、体験談であるとか、また、お母さんの体験談を聞いて、ごく普通のお母さんの松井さんが、自分のお子さんが不登校になって当惑した様子が伝わってきて、大変だったろうと思いました。

私は実は、全国的にどこの学校でも現れている現象ですが、この場で言うのがちょっとはばかれるのですが、私がこの不登校のことを考えているのは、今の教育そのものが、教育の在り方、やり方、学校での在り方が、子供というよりも人間、人間としての子供にそぐわっていないのではないかとこのことをちょっと思っております。

というのは、学校の先生になられる方々は、大学生の頃から先生になったらこのように教えるのだ、学習指導要領があってそれに基づいて教えるのだというように習って、大学生から学校の先生になっていくわけですが、今度先生になったときに、子供を見ていなくて、管理職の上司であったりとか校長先生であったり、教育委員会であったりとか、学習指導要領を見て教育をしているつもりになって、実際には一人一人の子供を見ていないような環境になっているのではないかと感じております。

それを思わされたのが、1人の学校の先生のことになるのですが、小学校1年生で学級崩壊になったクラスを受け持って、そして2年生になり半年ぐらいで1人もそのクラスから不登校が出ていないということです。

ほかのクラスは出ているので、どこが違うかと言ったら、その先生は体面を気にしないで子供のことを一生懸命見ていて、子供の成長を喜びながら日々を過ごしているということで、すごくそのクラスの子供たちは生き生きと楽しく、元気に過ごしているというお話を伺いました。

その先生は学校の中では、子供に好き勝手にさせているということで、すごく怒られているそうです。

でも子供を教育する、教えていくということは、子供を否定しないで子供をどんどん伸ばしていく、いいところを伸ばしていくというのが教育ではないかというようなことを、ある先生から聞かされて、なるほどと思ったことでした。

何かが間違っていて、ちょっとゆがんでいるのではないかと感じております。

委員長：那須委員。

那須委員：本当に100人いれば、100とおりの理由があるという不登校の実態について、改めて感

じたところでございます。

松井さんの話の中で、やはり子供たちに合わせるのではなくて、手放して様子を見ることも大事だという話も気になっておりまして、確かに直接1対1で子供たちと接するよりも、ちょっと離れて様子を見る状況もあるのかなど。

ただ、なかなか本当に気をつけていないと気づかないという点が、その不登校の実態がエスカレートしてくるというようなことだと思うのですが、それこそ家庭と学校をつなぐ「学校への依頼文フォーマット」、それからさらに今日出た今日の気持ちを天気予報というのもありました。

今日の子供たちの様子を自分たちから今日は晴れだ、曇りだ、あと台風だったら荒れていますというような、ちょっとした子供たちの、自分の思いを周りで気づいてあげて、今日の天気がちょっと悪いような子供に話しかけるような、そういうようなことで十分いいのではないかという感じをしていました。

ただやはりそういうシステムが学校なり家庭なりでなければ、そういったのも気づかないと思うのですけれども、なかなか人の目、人の感じだけでは気づかないような状態、子供たちの状況をはたから見るような、かつこよく言えばシステムですか、そういったものを確立していければ、少しでもそういった不登校の子供の対応にもつながるのではないかと感じたフォーラムだったということでございます。

委員長：門馬委員。

門馬委員：先ほどから言われていますが、不登校について百人百様ということですが、学校では不登校の子供たちに対応できない部分もあるというのは確かなことだと思います。

そういった子供たちの学びの場としてのフリースクールというのも大切な場なのだろうと改めて感じました。

この間、虹の学園を視察させていただきましたけれども、そういった面で、やはり新たにできた虹の学園の運営とか、そういった先については注目していかなければならないと思いました。

委員長：岩淵委員。

岩淵委員：今日のフォーラムにつきましては、様々な体験談、特に体験は非常に参考になったと思いました。

それから、今後の取組と申しますか、委員会として、聞きました、よかった、悪かっただけでは進まないと思うので、私としては、親御さんだったり、当の子供と言ったら失礼ですが、子供の声、様々聞いているのでそれはそれで、先ほど話があるように10人いれば10人の理由があって、解決方法があってということなので、切りがないので別な視点で、SSWと言われるスクールソーシャルワーカー、実際にその相談の現場に入って、相談をしている専門職の方、これ県から派遣されているので、果たして実現するかどうか分からないのですけれども、そういう現場で対応されている、親御さんとのバトルをやったり、子供とのバトルをやって、何とか問題解決しようと取り組んでい

る方がいらっしゃると思いますので、そういう専門職の方の御意見を聞く場というのもあってもいいのではないかと思います。

もう一つは、一関市も小学校、中学校、これだけ不登校の児童生徒がいますという説明はいただいているのですけれども、そしてもう1歩、学校ごとに知りたい。

何とか小学校はどうなのか、全体で児童数が何人いて、1年生が何人いて、1年生の不登校が何人いますとか、学校別に特色があるのか、地域別に特色があるのか、東と西で何か違うのかとか、何かがあるのか、それとも児童生徒に比例して、満遍なくそういう子供がいるのか、その辺について私は聞いてみたいというのがあります。

ということで、これからの委員会の取組として、委員長がどこかで質問するとか、もしくは提言するとかということまで持っていくのかもしれないけれども、そこに向けてどうしていくか、これからのストーリーを意見交換したほうがいいのではないかと思います。

委員長：千葉信吉委員。

千葉（信）委員：皆さんと一緒にございまして、今日の聴講の感想ですけれども、不登校児の100人が100通りということはそのとおりなのだろうと思います。

一つ感じるのは、親として不登校に対してあまり悲観することがなく、引目を感じなくて、親は親なりの普通の生活をしていて、そして接してくれればいいなということが子供たちには感じているということはそのとおりなのだろうなと。

いわゆる親は、家庭はつくるのですが、親も子供も、保護者もそうなのですが、おのおの個性もあり、人格があるということはそのとおりなのだろうと。

その人格は一つではないので、そういうことから親の生活の支障となるようなことがあってはならないと子供自身は思っているので、普通に不登校になっても感じることなく、生活できればいいのだという感じがしました。

親としてやはり保護者もですが、不登校の子供に対して遠からず近からずということで、等距離の中で見守ること、そして動じないということが大事だし、あとは家庭と学校、これは先ほどの松井さんの話ですけれども、やはり学校の理解が本当に功を奏しているのだということがあるので、不登校問題でしっかりと理解はないと思うのですけれども、学校と家庭のつながりがしっかりできればいいのでは、学校に対してお願いしていければいいのかと思いました。

もう一つ、相談する場、保護者の会、おしゃべり会、これがやはり重要なのだと、子供たちは子供たちにそういう場をつくる、親は親で、保護者は保護者でその場をつくる、そして、親と子が共通の場をつくっていく、これがやはり不登校をこれから少しでも減らしていく、そういった環境をつくっていくのが重要なのだということを感じました。

委員長：ありがとうございました。

たくさんの意見を頂戴いたしました。

先ほど岩淵委員からもお話が出ました。

まだまだ調査が必要だというお話で、そのとおりかと思っております。

さらに、本日の岩手県教育委員会からの資料に「教育支援センターの設置状況」がありますが、一関市では「たんぼぼ広場」ということで記載されております。

こちらは週2回なので、現場からは全日開催してほしいということだったり、さらに先ほどのフォーラムの中で、空き教室を利用して対応するというようなお話もありました。

その時に、今はタブレットを使用して子供たちも授業をしたりするのですが、そのWi-Fi環境が別教室だと不便な場合があるそうです。

ということで、これらについては、予算だけの問題とっておりますので、そういったところも併せて調査をする必要があるのではないかと考えてございます。

今、そのような質問を受けたりしたところでございました。

お諮りいたします。

先ほど岩淵委員、千葉信吉委員から発言がありましたことを今後調査するというようなことにしたいと思っております。

千葉信吉委員。

千葉（信）委員：先ほど岩淵委員から話がありましたけれども、ソーシャルワーカーもだけれども、今日の保護者の話もちよっと足りなかったような気が、千葉大作委員の話ではないですけれども、物足りない、少し足りないような気がするもので、何かこう、前にも言ったのですけれども、虹の学園の子供たちの保護者、働いているから時間が難しいと思うけれども、もし身近なところで、出来上がったばかりのところだけれども、そういうことができないのかと思ったりしたところでした。

委員長：ほかに御意見ございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長：なければ、不登校問題についての意見交換を終わります。

お諮りいたします。

ただいま千葉信吉委員から補足の意見も頂きましたが、今後の進め方に関しましては、皆様の御意見をお聞きし、正副委員長で協議しながら取り進めたいと思っております。

さよう進めることに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

委員長：異議ありませんので、さよう決しました。

そのほか、委員の皆様から何かございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長：なければ、不登校問題について調査を終わります。

次に、その他に入ります。

委員の皆様から何かございませんか。

(「なし」の声あり)

委員長 : なければ、その他を終わります。

以上で、本日予定した案件を終わります。

これをもちまして、本日の委員会を終了します。

御苦労さまでした。

(午後 3 時 20 分 終了)